婦人と新社會

山田わか主筆

十月號

大正九年二月二十三日第三種郵便物認可
昭和二年九月二十三日印刷納本

政治は國民の
歷史的生活を背景に

社會制裁としての敎育

家庭と子供の相對的影響

人類愛は最も近い處から

芥川氏の自殺に附て再び

社會事業の眼目とする處

—編輯の後—

昭和二年十月一日發行　第九十一號　毎月一回一日發行

東京　婦人と新社會發行

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

政治は國民の歷史的生活を背景に

國民の生活も個人の生活と同じく特別に熱し、興奮狀態にある時期があります。そして、今日の文明國の凡ては此の興奮狀態のうちに生活してゐます。だが、今後の歐洲諸國は革命と反動の間な上がつたり下がつたりする運命に支配されるであろうと相像していゝでせうか？

自由制度のシツカリした、平和狀態に到達することは出來ないだろうと考へるのが正しいでせうか？　さうではないと思ひます。

歐米の今日の狀態は、一時的の、唯、戰後の一危機に過ぎない。やがて確實な自由主義（リベラリズム）の原則に到着するでせう。なぜなら、此の自由主義の原則のみが平和と繁榮を齎すものでありますから。

政治に國際的であれ國民的であれ單に國民生活の表現です。

政治には、殊に今日の場合に、絕對的な原則などありよう筈がないのですが、併し、我が國の一部の人々が歐洲の此の一時的の現象を絕對の原則ととりちがへて、何等躊躇する處もなく模倣しようとしてゐるのは滑稽です。否、我が國の將來のため大いに有害です。

政治生活はどこまでも國民の歷史的生活を背景として進まなければ、決して國民の幸福を增進することはできません。ですから、露國のボルシェヴィズムも伊太利のファシズムも斷じて我が國の模範とするものではありません。

が、英國の自由主義は我國の模範とはならなくても、先づ、も良き參考となるものでありませう。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

社會制裁としての教育

◇

一體、學校の目的は、知識や技術を教へる外に學生の社會性を養成するのが目的であると私は考へてゐます。

なぜなら、私共人間には個人的性質と社會的性質とがあります。そして、その社會的性質は遺傳ではありません。それは環境から獲得するものです。つまり、主もに幼年期及び少年期の非常に印象を受けやすい時代に造られるものです。故に、今日の人間の幼少年時代の環境及びその時代に與へられた教育が今日の社會を造つてゐるといふことができます。

實に、幼少年の教育は彼等が發育しつゝある時に當つて彼等の品性や習慣をかたちづくります。かくして、彼等の人格は造られて行きますそこで、教育は個人を社會化する主もなる手段であるといへるのです。

ですから、文明社會がより高尚な社會秩序を實現しやうとするに當つて、まづ第一に據らねばならぬところは教育です。

幼少年の發育しつゝある伸縮自在な時代において、彼等は適當な人爲的な環境を與へられなければならない。ことに、正しい觀念、模範、及び、價値といふ心理社會的の環境を彼等は與へられなければならない。

◇

遺傳が可能ならしむる殆ど如何なる方向においても教育はそれを善導し、個人の人格をかた

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

ちづくることができ、かくして教育は政府、法律、宗教又は道徳の力では困難なる社會的調節に貢獻することができるのです。

故に、教育は他の如何なる偉大な社會制裁の機關より重要なものです。より進歩的な、より高尚な社會秩序を實現するためには教育に據らなければならないのです。政府、法律、宗教及び道徳は靜的になりがちです。

教育制度もまた或る狀態の下には靜的になりがちでありますけれども、しかし現に存在してゐる社會狀態よりも一層高尚な社會狀態を造り出すためにはやはり教育に據らなければなりません。教育によつてそれは可能となります。

◇

勿論、教育は學校にのみたよるべきものではない。それは家庭から始まらなければならない家庭教育が皆無で、家庭にあつては親の云ふことをきかない。親の感情や親の意志を踏みにじることを茶飯事と心得てゐる少年が學校へ行つて校規を踏みにじることは餘りに當然な成行きであるといふことは他の機會に書いて置きましたが、現今の幼少年の多くが家庭教育を受けてゐなければゐない程、なほ更學校教育は嚴格でなければならない。私共が社會秩序といふことを問題とするに當つては、やはりこの學校教育といふことを考慮しなければなりません。

とはいへ、私のいふ學校教育は今日流行してゐる營業化した教育ではありません。

より高尚な社會秩序を造り出そうとする教育は現存してゐる秩序の他の力と共同した徹底的社會化した教育でなければならないのです。

◇

社會秩序を維持するに當つて、政府、法律、宗教及び道徳の理想がそれ〴〵に充分なる社會

的効果をあげ得るように、教育の力は働かねばならない。教育は社會制裁の他のいろ〳〵の手段とは別なものとして考へてはならない。それらの手段を一層成功せしむる方法として考ふべきです。

従つて、教育の問題は政府、法律、宗教及び道德の建設的方面が如何にして合理的に社會制裁の他の機關と共同するようになり得るかといふことです。

今日までの教育も或る程度まではさういふ仕事をしてきました。けれども、この問題の解決までには、まだ、いろ〳〵の過程を經なければなりません。

第一、教育そのものがもつともつと民衆的にならなければならない。同時に、政府、法律、宗教及び道德の仕事がなほ一層民衆化しなければならない。

そして、教育はそれらの偉大なる社會化の力を制限する道具としてゞはなく、社會的發達の手段として活躍しなければならない。

◇

けれども、教育が今日のような狀態にあつたのでは、私共はより高い社會秩序の實現を望むことはできません。

高い教育を受ければ受ける程、國民は社會的になることの代りに非社會的になりつゝあると云ふのが現狀です。

そして、これは國民全般が社會生活と云ふことに餘まりに無知であるからです。

その上に、政府及び法律に關する消極的の學説が普及したことが社會秩序を維持し、それを向上せしむることを困難ならしめてゐます。

かような消極的な學説はもと〳〵政府、法律宗教、及び、道德の價値を大體に於て見ること

ができない處から始まつてゐることを人間社會を科學的に研究する人は明らかに見てゐます。

それ故に、社會を科學的に研究する人は、いかにせば凡ての社會制裁の機關、卽ち政府、法律、宗教及び道德の最善な發達を期すことができるかといふことを一般民衆に示さなければなりません。

明らかに、教育事業は、社會制裁のそれ等の機關を社會の利益のために最高な狀態にまで引き上げることです。

そこに教育の最高な目的は存するのですが、いひかへれば、學校教育を受けることによつて充分に社會性を養成され、社會に出て有效な社會人として立派に活躍するようにならなければならないのですが、さうなることの代りに、在學中に既に〳〵非社會性を十二分に發揮して學校騷動を頻々として起してゐる。

その責が教育者側にあるにせよ、又は被教育者側にあるにせよ、とにかく、わが教育界には教育の根本精神が滅してゐる。わが教育制度が死にひんしてゐることだけは事實です。

◇

家庭と子供の相對的影響

子供に對する家庭の影響が如何に重要であり又家庭に對する子供の影響が如何に重要であるかと云ふことは最早議論の餘地はありません。けれども百人の母のうちの一人の母が本當に母

としての資格を持つてゐるかどうか？　その大部分は唯盲目な愛に左右されて子供の身心を毒しつゝあるのではないでせうか？

子供の心身に惡影響を及ぼす第一のものは親の愛の缺乏であつて、そして、第二のものは盲目の愛です。

且つ、又、家庭内の不和は、子供が一生涯打ち破ることの出來ない暗い影を子供の性質のうちに植へ付けます。彼の將來の情緒生活の根本に反抗的氣分が根を張つてゐて取れないことになります。

盲目な愛は他人に迷惑をかける不愉快なだゞつ子を造り、そして、そのしまりのない習慣から彼は一生涯脱することが出來ず、自分の家庭を持つた時にも家族の者に又は友人知己に迷惑をかけつゞけ、自分自身も常に不愉快な一生を送らなければならないことになります。調和を缺いた軋轢の絶へない暗い家庭の空氣に取りまかれて成長するならば、その暗い空氣は一生涯其の子供から離れる時はないでせう。ですから幼少年時代の生活が彼の一生を支配すると云ふことはまぬかれ難い人の運命です。

○

こう云ふ運命から救ふために、子供は生れるとすぐに兩親の手から離すのが最上であると云ふ説を立てる人が幾人かありました。婦人の手から育兒と云ふ荷を取り去ろうとする誤まつた婦人論と相待つて、國立育兒院なるものを設立し、生れる子供を皆其處へ收養し、科學的に公平に養育しようと云ふのです。偉大なる個人主義者であり自然教育の主張者なるルソーは彼の子供の凡てを養育院に送り子供達の將來に付ては全く無關心でありました。

けれども、これは凡ての親達に首肯される考

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

へ方ではありません。

常識によつても明らかでありますが、米國に於ける百九十萬人の子供を收容してゐる一千四百箇所の養育院の研究は、親の愛を缺いた子供の生活が如何に悲慘であるか、彼等の人格を建設するに如何に其れが不備であるかを證明してゐます。

そこで、最惡な家庭でも育兒院には優ると云ふ決論に到着してゐるわけであります。

愛情によつて左右されるのではなく、規則と云ふ機械によつて支配される育兒院の子供等は情味ゆたかな考へる力を持つ眞の意味の人間ではなく、機械が產出した機械的人間です。

近時の學校にも此の機械的要素が多分にあることに對して多くの親達は不滿を持ち、そして我が子の敎育は一切家庭に於て行はふとする人さへあります。

子供と家庭との關係は、子供と學校との關係よりもより多く相互奉仕的であります。

家庭と云ふものは一つの全き有機體の如く家庭員各自の努力の相互補足、相互奉仕です。

けれども、この頃の大都市に於ける子供は時間の大部分を學校及びその他の修業のために費し、家庭に於て過す時間が少ないので、善良なる國民となることができないと考へる理由があります。

先づ、通例な家庭が有益な國民を養成する最上な學校であります。『大家庭の一員であつて、そして、自己を守ると同時に平和な關係を他の家族員と保ち得た人は社會に出て多くの社會員と接觸し平和な關係を保つことを甚だ容易に感ずるだらう。なぜなら、彼は自己の利益を支持すると同時に他の人の利益を尊敬しようとする難しい術を會得してゐるのであるから』と云つ

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

た人があります。

○

普通人は自分の子供を愛すと同じ程度に他人の子供を愛することはできません。ですから、他人である男と女と幾人かの子供等を一つの家の中へ入れて人工的な家庭を造ろうとしても其れは不可能です。有機的な一家庭とそれを爲すことは絶對不可能です。

男、女、及び、子供と云ふ異つた種類の人間から成る一つの家庭は遺傳、習慣、及び、愛情と云ふ要素によつて化合されてあるものです。

それから、又、眞の意味の教育は大勢の子供を一人の教師が取り扱ふ學校に於て爲すよりも家庭に於て爲すべきだと云ふ理由は、一人の教師が大勢の子供の一人々々の特長や缺點を完全に知り得るものではないに反して、母は頭徹徹尾其れを熟知してゐるものであり、そして、その特長を伸し缺點を除去するのが眞の意味の教育であるからです。

遺傳に關する知識が多くなればなる程、家庭の教育的作用は益々重要視されるようになるでせう。

今日の一般の家庭は決して完全ではありません。その缺點を擧げて見れば數限りがありません。が、それでも、猶、子供の教育のためには一夫一婦の家庭に代るものは外にありません。

要するに、家庭の幸福を增進し、引いては社會の健實を期待するならば、男は女をもつと了解し、その個性並びに人格を尊重し、そして、女は男をばかりでなく自分自身をも了解しなければなりません。

夫婦は相互が相互の指導者でなければならない。なぜなら、人類の幸福と進歩を期するためには家庭制度よりもより有効な制度は外に無い

Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

のですから。

○

一夫一婦の結婚及び家庭が社會の生物學上の基礎であると云ふことは永久に不變であると信ずる理由があります。社會組織がどんな風に變はつても、又は、家庭生活の詳細の様式にはどんな變化があつても、併し、一夫一婦の家庭が國家の基礎であると云ふ大原則には變化があるわけはありません。

幾人も／＼の空想家が結婚及び家庭に關していろ／＼の空想を描きました。彼等が夢想を抱き、空想をたくましくすることは其れは彼等の自由です。けれども、我々が滿足的な家庭生活を建設するためには少しも彼等のお世話になる必要はありません。唯、現存する家庭生活に幾分の改良を加へて行けば可なりです。

所謂新人や過激思想の持主達は結婚及び家庭に關して事實とは全くかけ離れた空論を振り廻してゐたにも拘らず、彼等の凡てが皆申合せたように一夫一婦の結婚に納まり、家庭を造り子供を生み、良き父、賢い母にならうとしてゐるから妙なものです。

實に、家庭は現存してゐる諸制度のうちで最も古いものであります。

今日の人間の知識が屆く範圍に於て、家庭生活が見るべき變化を經てゐないことは實に五十萬年だと云はれて居ります。

そして、この家庭が國の基礎だと云はれる理由は

第一、人種の繼續
第二、國家の安泰
第三、個人の幸福
第四、次代の教育

であるからと云はれて居ります。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

社會の諸制度は先づ家庭制度が無ければ存立致しません。文明も進みは致しません。

過去一世紀の間に於て、文明の姿には大變化がありました。けれども、一夫一婦の家庭生活は今も昔も同じです。

家族制度に比較すると、凡て外の社會的及び經濟的の制度は此の頃のものであります。

ですから、凡ての他の諸制度は家族制度程の試練を經てゐないし、從つて、人類の幸福のために家族制度程のその有効さが確かめられてゐないのです。

故に、一夫一婦の家族制度は、凡て他の諸制度よりもより確實であり、より永久的であり、先天的のものであると考へられるわけであります。

人類愛は最も近い處から

「類をもつて集まる」鳥類、又は、獸類が少なくないと云ふことはあまねく人の知る處でありますが、人間も亦昔は肉親乃至同族と云ふことに非常に重きを置いて、そして、鳥類又は獸類が他の種類の鳥や獸物を無視するか或ひは敵視してゐるように、自分の肉親乃至同族以外の人間を無視するか或ひは敵視してゐました。

敵視しないまでも無視してゐたと云ふのは事實です。

「あれも人の子樽拾ひ」

と云ふ句がありますが、これは自分の階級と他の階級の間に堅固な垣を造つて他の階級をかへりみないのが通常であつたが、凍てつくような寒い雪の中をトボ〳〵歩む樽拾ひの子供を見て惻隱の情を動かし口をツイて出たのが此の句であろうと想像します。つまり、階級意識の盛んな時代に人類愛に對する心の窓を開いたのがこの句を讀んだ人でありませう。

* * *

血族關係と云ふことは今日に於てもなか〳〵優勢な力を持つてゐますが、併し、この關係を突破して、凡ての人に對し、同じような愛情を持つ。それが人類愛であります。

釋迦や、基督は自分の同族ばかりでなく、又自國人ばかりでなく、地球上のありとあらゆる人類に愛の心を向けて居ました。人類の不幸を憐み、人類の幸福の増進を思ふて自己の生活をかへりみる暇を持たなかつた釋迦や基督こそ實に人類愛の權化であります。

大人物とか聖人とか云はれる人は人情に厚い人で、自己又は自己の肉親の者と同じように他人を愛することができる人であり、故に、人間の大きさはその人々が持つてゐる愛情の大きさによるものだと云ふこと、自分のことだけしか考へられない人間はそれだけの大きさの人間であり、利己主義者だとか手前勝手だとか云はれる人がそれであり、けれども、自分の命にかへても親なり配偶者なり子供なりを愛することのできる人はそれだけ大きい人、一町村一都市を愛する人は其の一町村一都市だけ、一國を愛す人は一國だけ、全世界を愛す人は全世界だけの大きい人であるから、釋迦や基督は全人類を愛した、故に、釋迦や基督は全人類を皆ひつくるめたゞけの大人物であると云ふことは曾て書い

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

たことがあります。

＊　＊　＊　＊

知力が發達すればする程、文化が進めば進む程、罪惡は巧妙になり、大きくなると云ふことは、その知力、その文明を主宰せねばならぬ愛情の力が小さいからです。愛のしもべであり、道具である筈の知力が主人顔して跋扈するからです。

最高な知力、最新の技術を持てばそれで最上な人間になつたように誤まつて考へてゐる處から、往々それ等の知力や技術が惡のために、つまり、不人情なことのために用ひられるようになるのです。

西洋人の惡人は日本人の惡人よりも、することが規模も大きいし、又巧妙であると云はれて居りますが、それは日本人よりも優れた知力と技術を持つてゐるからです。愛情を無視して優れた知力と技術を持つてゐることは狂人が名刀を持つてゐるように危險です。

＊　＊　＊

人は親切でなければならないと昔から云はれてゐましたが、この親切と云ふ言葉を科學的な現代語に直すと社會正義と云ふ言葉になると同じように、ゆたかな愛情と云ふことが即ち人類愛と云ふことになります。

ですから、どんなに立派な議論を持つてゐても、すぐれた藝術家であつても、全人類の幸不幸はさて置き直接の肉親即ち親や配偶者や子供の苦痛をかへりみることができず、自分の思ふまゝの行動をとる人は不人情の極、人類愛に最もとぼしい人であります。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

芥川氏の自殺に附て再び

大正十一年の九月だつたと思ひます。私は有島武郎氏と同席しましたが氏は「始め流動體且火の玉のようなものであつた此の地球の熱がだん〳〵さめて固形體となりその表面に生物が出來たと云ふが、一體どう云ふわけで、又、何のためにさうなつたか？　我々人間は何處から來て何處へ行くのか？　何のために生れて何のために生きてゐるのか？　などゝ云ふことを考へると私は不安で〳〵ゐても立つてもゐられなくなる」と仰有つたので、その時私は思ひました。

「あゝ云ふものゝ考へ方をしてゐたのでは人間は神經衰弱になつてしまう。有史以來の無數の人間が考へても〳〵考へきれない宿題を如何に聰明だとは云へ、一人の小さい頭で解決しようとしたり、此の廣大無邊な宇宙の事實を全部知ろうとしたりしても、それは唯單に自分自身を疲勞させてしまうに止まる。時間的に空間的に一個の人間が如何に小さいものであるかと云ふことを氏が會得しないかぎり氏の生命は危い」と。

芥川氏の自殺と云ふ結果から見て、氏も亦有島氏のような人生觀の持主ではなかつたかと私は考へてゐます。人は誰でも或る時期に到達すると人間生活に倦怠を覺へるものであるようです。こう云ふ私も一時さう云ふ時がありました。一年々々と年は進み、やがて死んで行くものであるのに何のために努力するか？　苦しい思ひをして何のために勉强するのか？　と云ふ風に考へて、そして、一切が馬鹿々々しく感ぜられて來ました。

併し、自分を愛する者又は、自分を頼る者があることを思ふ時、自分の生命を粗末にするのは大きな罪惡だと私は考へました。そして、私は自分の愛する者のために生きねばならない、自分　愛する者をより幸福にするために自分はより賢くより善くならなければならないと決心致しましたが、さう云ふ心境を經てから二十年を經過した今日に於ても私のその氣持ちは決して變つて居りません。

社會事業の眼目とする處

社會事業には其の種類が二つあります。即ち理論を基礎とした革命主義から生れた社會事業と、歴史的社會事業即ち國民の生活を基礎とした社會事業と。

そして、我が國の社會事業は前者即ち理論を基礎とする種類の色彩が濃厚ではないかと云ふ憂へがあります。と申ますのは持つてゐる者から持つてゐない者に與へようとする傾向を帶びてゐます。そして、こう云ふ行き方は決して歴史的でない。云ひかへれば、建設的でないのです。

限りあるものを限りない被救濟者に與へようとすることは不可能であるばかりでなく、被救濟者を墮落させる。即ち、依頼心を養成することになります。

働くことによつて結局人は救はれるのですから、生産的になるより外に有意義に生きる道はないのです。たとへば、私娼を多く取扱ふ或る警察署長が彼女等を正業に附かしむるの困難を歎じて「如何に訓戒しても處罰しても、放しさへすれば彼女等は直ぐに罪を犯す。そして、それは社會が彼女等に對して冷淡であるからだ」と云つてゐますが、併し、私の考へる處では社會が冷淡と云ふよりも、本人達が眞面目に働こうとする意志を缺いてゐる處に根本的の原因が潛んでゐるのです。本人達が眞面目に努力して有意義な勞働をする心になりさへすれば社會は決して彼女達を捨てゝは置かないと私は信じます。

故に、民衆の救濟事業は民衆をして働かしむること を第一條件としなければならない。つまり、民衆の態度が將來の社會的行動の基礎となるように、且つ、社會道德を創造するような方針を取らなければならないのです。

如何なる社會事業も、皆、必要があつて起つたに相違ないのですが、併し、いづれの社會事業にも一つの缺點がある。即ち、其處に倫理的の要素が大いに缺け

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

てゐると云ふことです。で、それは我が國の社會事業が歐米の社會事業の唯表面的の模倣であるからだと思はれます。そこで、我が國の社會事業は根本的に建て直す必要がありはしないか。云ひかへれば、社會事業の倫理的基礎を先づ建設する必要があると思ひます。

編輯の後

病床に臥してから滿四ヶ月目の九月二十二日に嘉吉氏は始めて私に手を引かれて屋外へ出て見ました。それより四日前に椅子に腰かけて見ようかと申ますので、さう云ふ元氣が出たことを私は大いに喜び、かかへ上げるようにして椅子に腰を載せてやりました。椅子にかけてゐること暫くで立つて見ようかと云ひ、スックと立ち上がりました。『みんな來て御らん。お父さんがお立ちになつた！』と私は大聲で叫びました。父の立ち姿を四ヶ月目で見る家族の者は手をたゝいて萬歳を叫びました。

次の日は一歩足を運んで見て『ぢき歩けそうだ』と申ました。その次の日は三歩、その次の日は部屋の隅から隅までツッ、ツッーと歩み、そして、二十二日には屋外へ出て見たのでした。立ち上がり得るや否や進歩の早いことは實に驚くばかりで御座います。

昨日は朝と夕がたと二度、散歩しましたし、少し力を添へてやれば二階へも上がり下り出來ます。今朝も私が手をとつて一丁程の間を散歩させてから此の文を書いてゐる次第です。

長い間、御心配下さいました皆様に經過を御報告かたがた御芳情を厚く御禮申上げます。（九月二十五日）

□一年中で最も心持ちのよい秋風が訪れました。雨でも降ると淋しい感じも致しますが併し燈下書に親しむの候はなつかしう御座います。皆様の御健勝を祈り上げます。

本誌臨時定價表

一册	金十錢	送料五厘
六册	前金五十五錢	（送料共）
十二册	前金壹圓	（送料共）

▲誌代及郵税は前金の事▲御送金の際は振替貯金東京五六八八八番に御拂込みのこと▲郵券代用は五厘切手にて一割増▲廣告は御照會次第御相談いたします

昭和二年九月廿三日印刷納本
昭和二年十月一日發行

東京市四谷區南伊賀町四一
編輯兼發行人　山田嘉吉

東京市牛込區山吹町一九八
印刷人　大杉直次郎

東京市四谷區南伊賀町四一
發行所　婦人と新社會社
振替東京五三六八八番